

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断時、乳癌全体)
P	初期治療後の患者	
I	診断時肥満	
C	診断時非肥満患者	
臨床的文脈	<p>2012年9月までに3件のメタアナリシスあり。全て診断時の肥満は乳癌再発リスク、乳癌死亡リスク、全死亡リスクを上昇させるとの一定の結論であった。2012年9月以降2021年3月までにメタアナリシスは4件(TNBCに限定した報告が2件)あった。</p> <p>各々の文献を抽出し、乳癌全体として27件(研究は計25件)でSRを行った。</p> <p>乳癌再発リスクは20件で定量的SRを行い、効果に異質性は認めるものの、文献数は多く、報告バイアスは認めず、結果は有意であり、乳癌全体で見ると、エビデンスの強さは中で、診断時肥満患者の乳癌再発リスクが高いことはほぼ確実と考えられる。</p>	
O1	乳癌再発リスク	
非直接性のまとめ	特になし。臨床試験の後解析が多数(11件)を占める。	
バイアスリスクのまとめ	特になし	
非一貫性その他のまとめ	効果の異質性は認めるが、明らかな非一貫性は認めない。	
コメント	今までの報告通り	

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断時、乳癌全体)
P	初期治療後の患者	
I	診断時肥満	
C	診断時非肥満患者	
臨床的文脈	<p>2012年9月までに3件のメタアナリシスあり。全て診断時の肥満は乳癌再発リスク、乳癌死亡リスク、全死亡リスクを上昇させるとの一定の結論であった。2012年9月以降2021年3月までにメタアナリシスは4件(TNBCに限定した報告が2件)あった。</p> <p>各々の文献を抽出し、乳癌全体として27件(研究は計25件)でSRを行った。乳癌死亡リスクは17件で定量的SRを行い、効果の異質性は中等度であり、文献数は多く、報告バイアスを認めたが、結果は有意であり、エビデンスの強さは中で、診断時肥満患者の乳癌死亡リスクが高いことはほぼ確実と考えられる。</p>	
O2	乳癌死亡リスク	
非直接性のまとめ	特になし	
バイアスリスクのまとめ	報告バイアスを認めた	
非一貫性その他のまとめ	効果に異質性は中等度であり、非一貫性は認めない。	
コメント	過去の報告通り	

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断時、乳癌全体)
P	初期治療後の患者	
I	診断時肥満	
C	診断時非肥満患者	
臨床的文脈	<p>2012年9月までに3件のメタアナリシスあり。全て診断時の肥満は乳癌再発リスク、乳癌死亡リスク、全死亡リスクを上昇させるとの一定の結論であった。2012年9月以降2021年3月までにメタアナリシスは4件(TNBCに限定した報告が2件)あった。</p> <p>各々の文献を抽出し、乳癌全体として27件(研究は計25件)でSRを行った。</p> <p>全死亡リスクは24件で定量的SRを行い、効果に異質性は認めるものの、文献数は多く、報告バイアスは認められず、結果は有意であり、エビデンスの強さは中で、診断時肥満患者の全死亡リスクが高いことはほぼ確実と考えられる。</p>	
O3	全死亡リスク	
非直接性のまとめ	特になし	
バイアスリスクのまとめ	特になし	
非一貫性その他のまとめ	効果に異質性は認めるが、非一貫性は認めない。	
コメント	過去の報告と同様	

【4-8 定性的システマテ

CQ	CQ7-1
P	HR陽性HER2陰性
I	診断時肥満
C	診断時非肥満HR陽
臨床的文脈	

O1
非直接性のまとめ
バイアスリスクの まとめ
非一貫性その他の まとめ
コメント

【バックレビュー】

肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断時、HR陽性HER2陰性)
II期治療後の患者
HR陽性HER2陰性患者
2012年9月以降2021年3月までにサブタイプ別のメタアナリシスの報告が1件あり、文献検索の過程でHR陽性HER2陰性に限って診断時肥満と予後の関係を検討した文献が8件あり、これをSRLした。乳癌再発リスクに関しては5件が該当。研究数は少なく、結果に異質性はあるが、結果は有意であり、診断時に肥満であるHR陽性HER2陰性患者の乳癌再発リスクは高いことはほぼ確実と考えられる。
乳癌再発リスク
特になし(HR陽性HER2陰性に限定)
1件が臨床試験の後解析のコホート
効果に異質性はあるが非一貫性があるとは言えない。
研究数が少なく、異質性もあるので今後も研究課題。

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断時、HR陽性HER2陰性)
P	HR陽性HER2陰性初期治療後の患者	
I	診断時肥満	
C	診断時非肥満HR陽性HER2陰性患者	
臨床的文脈	2012年9月以降2021年3月までにサブタイプ別のメタアナリシスの報告が1件あり、文献検索の過程でHR陽性HER2陰性に限って診断時肥満と予後の関係を検討した文献が8件あり、これをSRLした。乳癌死亡リスクに関しては4件が該当。研究数は少ないが、結果に異質性はなく、結果は有意であり、診断時に肥満であるHR陽性HER2陰性患者の乳癌死亡リスクは高いことはほぼ確実と考えられる。	

O1	乳癌死亡リスク
非直接性のまとめ	特になし(HR陽性HER2陰性に限定)
バイアスリスクのまとめ	1件は閉経前乳癌に限定したコホート
非一貫性その他のまとめ	効果に異質性はあるが非一貫性があるとは言えない。
コメント	研究数が少なく今後も研究課題。

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断時、HR陽性HER2陰性)
P	HR陽性HER2陰性初期治療後の患者	
I	診断時肥満	
C	診断時非肥満HR陽性HER2陰性患者	
臨床的文脈	2012年9月以降2021年3月までにサブタイプ別のメタアナリシスの報告が1件あり、文献検索の過程でHR陽性HER2陰性に限って診断時肥満と予後の関係を検討した文献が8件あり、これをSRLした。全死亡リスクに関しては6件が該当。研究数は少なく、結果に異質性はあるが、結果は有意であり、診断時に肥満であるHR陽性HER2陰性患者の全死亡リスクは高いことはほぼ確実と考えられる。	

O1	全死亡リスク
非直接性のまとめ	1件が閉経前乳癌のコホート、2件が臨床試験の後解析のコホート
バイアスリスクのまとめ	1件は閉経前乳癌に限定したコホート、1件が臨床試験の後解析のコホート
非一貫性その他のまとめ	効果に異質性はあるが非一貫性があるとは言えない。
コメント	研究数が少なく今後も研究課題。

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断時、HER2陽性)
P	HER2陽性初期治療後の患者	
I	診断時肥満	
C	診断時非肥満HER2陽性患者	
臨床的文脈	2012年9月以降2021年3月までにサブタイプ別のメタアナリシスの報告が1件あり、文献検索の過程でHER2陽性に限って診断時肥満と予後の関係を検討した文献が10件あり、これをSRした。乳癌再発リスクに関しては10件が該当。効果に異質性はなく、報告バイアスは認められず、結果は有意であった。よって診断時に肥満であるHER2陽性患者の乳癌再発リスクは高いことはほぼ確実であると判断した。	

O1	乳癌再発リスク
非直接性のまとめ	特になし(HR陽性HER2陰性に限定)
バイアスリスクのまとめ	1件は閉経前乳癌に限定したコホート、2件が臨床試験の後解析のコホート
非一貫性その他のまとめ	効果に異質性はなく非一貫性があるとは言えない。
コメント	ER陽性ER陰性別の研究報告も含め研究数が少なく今後も研究課題。

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断時、HER2陽性)
P	HER2陽性初期治療後の患者	
I	診断時肥満	
C	診断時非肥満HER2陽性患者	
臨床的文脈	2012年9月以降2021年3月までにサブタイプ別のメタアナリシスの報告が1件あり、文献検索の過程でHER2陽性に限って診断時肥満と予後の関係を検討した文献が10件あり、これをSRした。乳癌死亡リスクに関しては4件が該当。効果に異質性はなく、報告バイアスは認められないが有意な効果ではない。よって診断時に肥満であるHER2陽性患者の乳癌再発リスクが高いことは結論付けられないと判断した。	

O1	乳癌死亡リスク
非直接性のまとめ	特になし(HR陽性HER2陰性に限定)
バイアスリスクのまとめ	1件は閉経前乳癌に限定したコホート
非一貫性その他のまとめ	効果に異質性はなく非一貫性は明らかではない。
コメント	ER陽性ER陰性別の研究報告も含め研究数が少なく今後も研究課題。

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断時、HER2陽性)
P	HER2陽性初期治療後の患者	
I	診断時肥満	
C	診断時非肥満HER2陽性患者	
臨床的文脈	2012年9月以降2021年3月までにサブタイプ別のメタアナリシスの報告が1件あり、文献検索の過程でHER2陽性に限って診断時肥満と予後の関係を検討した文献が10件あり、これをSRした。全死亡リスクに関しては9件が該当。効果の異質性は中等度であり、報告バイアスは認められず、有意な効果であった。よって診断時に肥満であるHER2陽性患者の乳癌再発リスクが高いことはほぼ確実であると判断した。	

O1	全死亡リスク
非直接性のまとめ	特になし(HR陽性HER2陰性に限定)
バイアスリスクのまとめ	1件は閉経前乳癌に限定したコホート、1件が臨床試験の後解析のコホート
非一貫性その他のまとめ	効果に異質性はなく非一貫性は明らかではない。
コメント	ER陽性ER陰性別の研究報告も含め研究数が少なく今後も研究課題。

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断時、TNBC)
P	TNBC初期治療後の患者	
I	診断時肥満	
C	診断時非肥満TNBC患者	
臨床的文脈	2012年9月以降2021年3月までにサブタイプ別のメタアナリシスの報告が1件、TNBCに限定したメタアナリシスの報告が2件あり、文献検索の過程でTNBCに限って診断時肥満と予後の関係を検討した文献が12件あり、これをSRした。乳癌再発リスクに関しては9件が該当。エビデンスは弱く、結果に異質性があり、結果も有意ではなかった。診断時肥満はTNBC乳癌の乳癌再発リスクを上昇させるとは結論づけられない。	
O1	乳癌再発リスク	
非直接性のまとめ	特になし(TNBCに限定)	
バイアスリスクのまとめ	1件は閉経前乳癌に限定したコホート	
非一貫性その他のまとめ	効果に異質性はあるが非一貫性もあり。	
コメント	研究数が多くはなく、異質性もあるので今後も研究課題。	

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断時、TNBC)
P	TNBC初期治療後の患者	
I	診断時肥満	
C	診断時非肥満TNBC患者	
臨床的文脈	2012年9月以降2021年3月までにサブタイプ別のメタアナリシスの報告が1件、TNBCに限定したメタアナリシスの報告が2件あり、文献検索の過程でTNBCに限って診断時肥満と予後の関係を検討した文献が12件あり、これをSRした。乳癌死亡リスクに関しては5件が該当。異質性は中等度であるが、点推定値は1以上と一貫しており、有意な効果ではないが傾向を認め、診断時に肥満であるTNBC患者の乳癌死亡リスクは高い可能性がある。	
O2	乳癌死亡リスク	
非直接性のまとめ	特になし(TNBCに限定)	
バイアスリスクのまとめ	特になし	
非一貫性その他のまとめ	効果に異質性はあるが、非一貫性があるとは言えない。	
コメント	研究数が少なく、異質性もあるので今後も研究課題	

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断時、TNBC)
P	TNBC初期治療後の患者	
I	診断時肥満	
C	診断時非肥満TNBC患者	
臨床的文脈	2012年9月以降2021年3月までにサブタイプ別のメタアナリシスの報告が1件、TNBCに限定したメタアナリシスの報告が2件あり、文献検索の過程でTNBCに限って診断時肥満と予後の関係を検討した文献が12件あり、これをSRした。全死亡リスクに関しては11件が該当。異質性は高く報告バイアスを認めるが、有意な効果であった。	
O3	全死亡リスク	
非直接性のまとめ	特になし	
バイアスリスクのまとめ	特になし	
非一貫性その他のまとめ	効果に異質性も一貫性がないとは言えないが、有意な効果であり、診断時に肥満であるTNBC患者の乳癌死亡リスクは高い可能性がある。	
コメント		

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断後)
P	初期治療後の患者	
I	診断後肥満	
C	診断後に体重を維持した患者	
臨床的文脈	1998年1月から2021年3月までの網羅的文献検索で、乳癌診断後の肥満あるいは体重増加と乳癌患者の乳癌再発リスク、乳癌死亡リスク、全死亡リスクに関するメタアナリシスは1件、コホート研究は12件あった。乳癌再発リスクに関しては6件が該当し、効果の異質性は低く、結果も有意であった。研究数が少なく、エビデンスレベルは高くはないが(弱)、診断後の肥満が乳癌再発リスクを上昇させる可能性は高い。自らの行動で実施できる介入項目であり、全ての乳癌患者で、診断後に肥満を避けることが強く勧められる。	
O1	乳癌再発リスク	
非直接性のまとめ	2件がER陽性に限定したコホート。1件がTAC後のコホート。1件は非喫煙者に限定したコホート。	
バイアスリスクのまとめ	特になし	
非一貫性その他のまとめ	なし	
コメント	過去の報告と同じ	

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断後)
P	初期治療後の患者	
I	診断後肥満	
C	診断後に体重を維持した患者	
臨床的文脈	1998年1月から2021年3月までの網羅的文献検索で、乳癌診断後の肥満あるいは体重増加と乳癌患者の乳癌再発リスク、乳癌死亡リスク、全死亡リスクに関するメタアナリシスは1件、コホート研究は12件あった。乳癌死亡リスクに関しては9件が該当し、効果の異質性は中等度であり、結果も有意であった。研究数が多くはなく、エビデンスレベルは高くはないが(弱)、診断後の肥満が乳癌死亡リスクを上昇させる可能性は高い。自らの行動で実施できる介入項目であり、全ての乳癌患者で、診断後に肥満を避けることが強く勧められる。	
O2	乳癌死亡リスク	
非直接性のまとめ	1件がTNBCに限定したコホート。1件が非喫煙者に限定したコホート。	
バイアスリスクのまとめ	特になし	
非一貫性その他のまとめ	なし	
コメント	過去の報告と同じ	

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ7-1	肥満は乳癌患者の予後に影響を及ぼすか(診断後)
P	初期治療後の患者	
I	診断後肥満	
C	診断後に体重を維持した患者	
臨床的文脈	1998年1月から2021年3月までの網羅的文献検索で、乳癌診断後の肥満あるいは体重増加と乳癌患者の乳癌再発リスク、乳癌死亡リスク、全死亡リスクに関するメタアナリシスは1件、コホート研究は12件あった。全死亡リスクに関しては9件が該当し、効果の異質性は高いが、有意な結果であった。研究数が多くはなく、エビデンスレベルは高くはないが(弱)、乳癌診断後の肥満が全死亡リスクを上昇させるかどうかは結論付けられなかった。	
O3	全死亡リスク	
非直接性のまとめ	1件がER陽性に限定したコホート。1件がTNBCに限定したコホート。1件は非喫煙者に限定したコホート。	
バイアスリスクのまとめ	特になし	
非一貫性その他のまとめ	なし	
コメント	過去の報告や、最新のメタアナリシスとは異なる結果。	

【4-10 SR レポートのまとめ】

CQ7-1

診断時肥満(乳癌全般)について

乳癌再発リスク(9) : 文献数が多く(20 件)、効果に異質性はあるが、全体として有意な効果(HR 1.20; 95%CI 1.12-1.29)。エビデンスレベルは弱いとはいえ中とした。

乳癌死亡リスク(8) : 文献数が多く(17 件)、効果の異質性は中等度であるが、有意な効果(HR 1.31; 95%CI 1.21-1.42)。エビデンスレベルは弱いとはいえ中とした。

全死亡率リスク(8) : 文献数が多く(24 件)、効果の異質性は高いが、全体として有意な効果(HR 1.30; 95%CI 1.21-1.41)。エビデンスレベルは弱いとはいえ中とした。

診断時肥満(HR 陽性 HER2 陰性乳癌)について

乳癌再発リスク(9) : 文献数は少なく(5 件)、効果の異質性は中等度であるが、効果は有意であった(HR 1.27; 95%CI 1.12-1.45)。エビデンスレベルは弱い。

乳癌死亡リスク(8) : 文献数は少ないが(4 件)、効果の異質性は低く、効果は有意であった(HR 1.31; 95%CI 1.17-1.48)。エビデンスレベルは弱い。

全死亡率リスク(8) : 文献は少なく(6 件)、効果の異質性は中等度であるが、効果も傾向はあるが、効果は有意であった(HR 1.32; 95%CI 1.16-1.49)。エビデンスレベルは弱い。

診断時肥満(HER2 陽性乳癌)について

乳癌再発リスク(9) : 文献数は多く(10 件)、効果の異質性は低く、効果も有意であった(HR 1.16; 95%CI 1.05-1.30)。エビデンスレベルは弱いとはいえ、中とした。

乳癌死亡リスク(8) : 文献数は少なく(4 件)、効果の異質性は低いが、効果は有意ではない(HR 1.15; 95%CI 0.90-1.47)。信頼区間も広くエビデンスレベルは非常に弱い。

全死亡率リスク(8) : 文献は少なく(9 件)、効果の異質性は中等度であるが、効果は有意であった(HR 1.16; 95%CI 1.02-1.31)。エビデンスレベルは弱い。

診断時肥満(TNBC)について

乳癌再発リスク(9) : 文献数は少なく(9 件)、効果の異質性は中等度であり、効果も有意ではない(HR 1.06; 95%CI 0.95-1.18)。エビデンスレベルは弱い。

乳癌死亡リスク(8) : 文献数は少なく(5 件)、効果の異質性は中等度であるが、点推定値はいずれも 1 以上と一貫しており、効果は有意でないが、傾向を認めた(HR 1.20; 95%CI 0.99-1.46)。エビデンスレベルは弱い。

全死亡率リスク(8) : 文献は多く(11 件)、効果に異質性が高いが、効果は有意であった(HR 1.26; 95%CI 1.02-1.56)。エビデンスレベルは弱い。

乳癌診断後の肥満について

乳癌再発リスク(9) : 文献数は多くはないが(6件)、効果の異質性は低く、有意な効果(HR 1.29; 95% CI 1.11-1.50)。エビデンスレベルは弱いとはいえ中とした。

乳癌死亡リスク(8) : 文献数は多くはないが(9件)、効果の異質性は中等度、有意な効果(HR 1.24; 95% CI 1.09-1.41)。エビデンスレベルは弱いとはいえ中とした。

全死亡率リスク(8) : 文献数は多くはなく(9件)、効果の異質性は高いが、有意な効果(HR 1.36; 95% CI 1.15-1.61)。エビデンスレベルは弱いとはいえ中とした。